

和歌山病院での実習を終えて



角南 昇吾

今回呼吸器内科の実習の一環として、二日間和歌山病院で実習をさせていただきました。結核病棟の病室見学、人工呼吸器を実際に使用させていただくといい、実際の臨床現場の見学をさせていただくとともに、セミナーでは結核の胸部レントゲン像での診断の仕方、感染形式を基本から考えそこから結核感染に対する必要十分な予防策をわかりやすく教えていただきました。結核病棟の病室見学では N95 マスクを装着し、病室内での空気の流れ方など、結核患者が入院するために必要とされる病室の条件などを教えていただきました。

また、南方院長のセミナーにおいては、胸部レントゲンの読み方をレントゲンと影絵との比較から考え始め、レントゲンの基本原則からレントゲンのどういう所に注意を払い、如何にレントゲン上の異変を見つけ、その異変は何を意味なのかを考えたり、気管支の分岐を頭で覚えるのではなく、体を使って覚えるブロンコ体操を教えていただいたりと、大学での座学とは一味違う視点を教えていただき大変興味深かったです。

実習初日の晩御飯では南方院長にごちそうになり、その中のお話で基礎研究そのものの大切さだけでなく、その時々に来る人と人とのつながりの大切さをも伺うことができました。人とのつながりを大切にするという当たり前ですが、なかなか実践するのは難しいことを、実現できる懐の深い先生なのだと感じ入り、お腹だけでなく心も満たされました。

最後に、大変お忙しいにも関わらず、私たちに今回のような貴重な機会を与えていただき、過分なお心配りをいただいた南方院長を始め、ご協力いただいた全てのスタッフの皆さんに深く御礼申し上げます。